

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ジュンセイガクエン 学校法人 順正学園							
フリガナ大学の名称	キビコクサイダイガク 吉備国際大学 (Kibi International University)							
大学本部の位置	岡山県高梁市伊賀町8番地							
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法の本旨にのっとり、国際化社会に向けて学部・学科の学術研究領域に関する理論および社会の問題を研究教授し、応用能力をもつ人格を陶冶することを目的とする。							
新設学部等の目的	アニメーションの文化的価値を深く理解し、日本文化の一つとして継承し育成しながら、日本の新しいコンテンツとして世界に発信することで、今後の発展を総合的に担える人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次人	人			
	アニメーション文化学部 [School of Animation Culture]	4	40	—	160	学士 (アニメーション文化学)	平成26年4月 第1年次	岡山県高梁市 伊賀町8番地
	アニメーション文化学科 [Department of Animation Culture]							
	計		40	—	160			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>吉備国際大学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語学部外国学科 (1年次80) (平成25年6月届出) ・社会科学部ビジネスコミュニケーション学科 (廃止) (△60) (3年次編入学定員) (△10) ※平成26年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成28年4月学生募集停止) ・文化財学部文化財修復国際協力学科 (廃止) (△40) (3年次編入学定員) (△20) ※平成26年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成28年4月学生募集停止) ・文化財学部アニメーション文化学科 (廃止) (△40) ※平成26年4月学生募集停止 <p>平成26年4月名称変更予定</p> <p>吉備国際大学大学院 心理学研究科 臨床心理学専攻博士 (後期) 課程 → 心理学専攻博士 (後期) 課程 (通信制) 心理学研究科 臨床心理学専攻博士 (後期) 課程 → 心理学専攻博士 (後期) 課程</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	アニメーション文化学部 アニメーション文化学科	145科目	27科目	2科目	174科目	124単位		

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称	専任教員等					兼 任 教 員	人
		授 教	准 授 教	講 師	助 教	計		
新 設 分	アニメーション文化学部 アニメーション文化学科	4 (4)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	20 (16)
	計	4 (4)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	20 (16)
既 設 分	社会学部 経営社会学科	8 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (11)	0 (0)	5 (5)
	社会学部 スポーツ社会学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	30 (30)
	保健医療福祉学部 看護学科	7 (7)	5 (5)	4 (4)	3 (3)	19 (19)	1 (1)	15 (15)
	保健医療福祉学部 理学療法学科	6 (6)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	14 (14)
	保健医療福祉学部 作業療法学科	5 (5)	3 (3)	5 (5)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	19 (19)
	保健医療福祉学部 社会福祉学科	6 (6)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	16 (16)
	心理学部 心理学科	6 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	20 (20)
	心理学部 子ども発達教育学科	10 (10)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	19 (19)
	地域創成農学部 地域創成農学科	8 (8)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	20 (20)
	外国語学部 外国学科	8 (6)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	15 (13)	0 (0)	5 (1)
	通信教育部 心理学部 子ども発達教育学科	10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	19 (19)
計	69 (68)	33 (33)	27 (27)	4 (4)	133 (132)	1 (1)	182 (178)	
合 計	73 (72)	37 (37)	28 (28)	4 (4)	142 (141)	1 (1)	202 (194)	
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	37 (37)		17 (17)		54 (54)		
	技 術 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員	1 (1)		7 (7)		8 (8)		
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計	38 (38)		24 (24)		62 (62)			
								平成25年6月届出済み
								専任15人が通学・通信を併せ持つ

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	吉備国際大学短期 大学部・順正高等 看護福祉専門学校 と共用 順正高等看護福祉 専門学校収容定員 320名			
	校 舎 敷 地	40,056.51 m ²	78,396.54 m ²	0 m ²	118,453.05 m ²				
	運 動 場 用 地	15,970.00 m ²	33,172.00 m ²	0 m ²	49,142.00 m ²				
	小 計	56,026.51 m ²	111,568.54 m ²	0 m ²	167,595.05 m ²				
	そ の 他	16,806.46 m ²	84,558.20 m ²	0 m ²	101,364.66 m ²				
	合 計	72,832.97 m ²	196,126.74 m ²	0 m ²	268,959.71 m ²				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	吉備国際大学短期 大学部と共用			
		39,676.47 m ² (39,676.47 m ²)	2,713.95 m ² (2,713.95 m ²)	5,498.35 m ² (5,498.35 m ²)	47,888.77 m ² (47,888.77 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	5 8 室	4 4 室	5 6 室	4 室 (補助職員 1人)	5 室 (補助職員 1人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		アニメーション文化学部アニメーション文化学科		9 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	アニメーション文化学部 アニメーション文化学科	8,769 [824] (8,769 [824])	16 [3] (16 [3])	3 [2] (3 [2])	269 (269)	65 (65)	4 (4)		
	計	8,769 [824] (8,769 [824])	16 [3] (16 [3])	3 [2] (3 [2])	269 (269)	65 (65)	4 (4)		
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		2, 3 2 1 . 8 0 m ²	4 7 0 席		2 0 0 , 0 5 9 冊				
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
		3, 7 7 3 . 2 7 m ²	雨天練習場 (野球)		サッカー場 (人工芝) 1面				
経 費 の 積 累 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・データベースの 整備費 (運用コスト含 む) を含む 大学全体
		教授	520千円	520千円	520千円	520千円			
	教員1人当り	准教授	465千円	465千円	465千円	465千円			
	研究費等	講師	415千円	415千円	415千円	415千円			
		助教	305千円	305千円	305千円	305千円			
	共同研究費等		10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円			
	図書購入費	500千円	500千円	500千円	500千円	500千円			
	設備購入費	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円			
	学生1人当り	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	納付金	1,330千円	1,030千円	1,030千円	1,030千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等						

大学等の状況	大学の名称	吉備国際大学							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
		年	人	年次人	人		倍		
既設大学等の状況	社会学研究科								
	社会学専攻 博士(後期)課程	3	4	—	12	博士 (社会学)	0.00	平成9年度	
	社会学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士 (社会学)	0.87	平成7年度	
	文化財保存修復学研究科								
	文化財保存修復学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 (文化財保存修復学)	1.10	平成17年度	
	保健科学研究科								
	保健科学専攻 博士(後期)課程	3	3	—	9	博士 (保健学)	0.99	平成17年度	
	保健科学専攻 修士課程	2	6	—	12	修士 (保健学)	0.33	平成12年度	
	社会福祉学研究科								
	社会福祉学専攻 修士課程	2	7	—	14	修士 (社会福祉学)	0.28	平成11年度	
	心理学研究科								
	臨床心理学専攻 博士(後期)課程	3	2	—	6	博士 (臨床心理学)	0.16	平成18年度	
	臨床心理学専攻 修士課程	2	15	—	30	修士 (臨床心理学)	0.56	平成16年度	
	心理学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 (心理学)	0.20	平成22年度	
	(通信制)社会福祉学研究科								
	社会福祉学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (社会福祉学)	0.50	平成14年度	
	(通信制)連合国際協力研究科								
	国際協力専攻 修士課程	2	7	—	14	修士 (国際協力)	0.99	平成18年度	
	(通信制)心理学研究科								
	臨床心理学専攻 博士(後期)課程	3	3	—	9	博士 (臨床心理学)	0.44	平成18年度	
	(通信制)保健科学研究科								
	理学療法学専攻 修士課程	2	15	—	30	修士 (理学療法学)	0.66	平成20年度	
	作業療法学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (作業療法学)	0.90	平成22年度	
(通信制)知的財産学研究科									
知的財産学専攻 修士課程	2	30	—	60	修士 (知的財産学)	0.18	平成20年度		
(通信制)環境リスク マネジメント研究科									
環境リスクマネジメント 専攻修士課程	2	10	—	20	修士 (環境リスクマネジメント)	0.10	平成20年度		
社会科学部									
経営社会学科	4	60	3年次 10	60	学士 (経営社会 学)	0.36	平成25年度		
国際社会学科	4	—	—	—	学士 (社会学)	—	平成2年度		
ビジネスコミュニケーション学科	4	60	3年次 10	260	学士 (社会学)	0.65	平成2年度		
スポーツ社会学科	4	120	3年次 10	480	学士 (社会学)	0.80	平成17年度		
保健医療福祉学部									
看護学科	4	60	3年次 10	200	学士 (看護学)	1.08	平成7年度		
理学療法学科	4	40	—	160	学士 (理学療法学)	1.28	平成7年度		
作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	1.23	平成7年度		
社会福祉学科	4	50	3年次 20	170	学士 (社会福祉学)	0.40	平成23年度		

平成22年度名称変更
臨床心理学研究科→
心理学研究科

岡山県高梁市
伊賀町8番地

平成22年度名称変更
(通信制)臨床心理学研究科→
(通信制)心理学研究科

平成25年度名称変更
社会学部→社会科学部
平成25年度より学生募集停止
国際社会学科
平成25年度
スポーツ社会学科入学定員
120名→100名(△20)
平成26年度より学生募集停止
ビジネスコミュニケーション学科

平成23年度名称変更
保健科学部→保健医療福祉学
部
平成25年度
看護学科入学定員
40名→60名(20)

大学等の名称	吉備国際大学								所在地	備考	
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
社会福祉学部										岡山県高梁市伊賀町8番地	平成23年度より学生募集停止 社会福祉学科 子ども福祉学科
社会福祉学科	4	—	—	—	学士 (社会福祉学)	—	平成7年度				
子ども福祉学科	4	—	—	—	学士 (社会福祉学)	—	平成18年度				
心理学部						0.68					
心理学科	4	50	—	230	学士 (心理学)	0.61	平成19年度				
子ども発達教育学科	4	40	—	120	学士 (子ども発達教育学)	0.82	平成23年度				
文化財学部						0.30					
文化財修復国際協力学科	4	40	3年次20	200	学士 (文化財学)	0.38	平成19年度				
アニメーション文化学科	4	40	—	160	学士 (文化財学)	0.24	平成22年度				
国際環境経営学部						—					
環境経営学科	4	—	—	—	学士 (環境経営学)	—	平成20年度			平成25年度より学生募集停止 環境経営学科	
地域創成農学部						0.93				兵庫県南あわじ市志知佐礼尾370-1	
地域創成農学科	4	60	3年次10	60	学士 (地域創成農学)	0.93	平成25年度				
通信教育部心理学部						0.46				岡山県高梁市伊賀町8番地	
子ども発達教育学科	4	50	2年次30 3年次30	190	学士 (子ども発達教育学)	0.46	平成24年度				
大学等の名称	九州保健福祉大学										
大学等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考		
医療薬学研究科									宮崎県延岡市吉野町1714番地1	平成23年度 臨床福祉学科収容定員減(△24)	
医療薬学専攻 博士課程	4	4	—	8	博士 (医療薬学)	0.87	平成24年度				
(通信制)連合社会福祉学研究科											
社会福祉学専攻 博士(後期)課程	3	5	—	15	博士 (社会福祉学)	0.73	平成16年度				
(通信制)社会福祉学研究科											
社会福祉学専攻 修士課程	2	20	—	40	修士 (社会福祉学)	0.30	平成14年度				
(通信制)保健科学研究科											
保健科学専攻 博士(後期)課程	3	3	—	9	博士 (保健科学)	2.33	平成16年度				
保健科学専攻 修士課程	2	7	—	14	修士 (保健科学)	2.14	平成14年度				
社会福祉学部						0.44					
スポーツ健康福祉学科	4	40	3年次2	164	学士 (社会福祉学)	0.85	平成16年度				
臨床福祉学科	4	145	3年次6	599	学士 (社会福祉学)	0.36	平成11年度				
子ども保育福祉学科	4	50	—	200	学士 (社会福祉学)	0.39	平成19年度				
保健科学部						0.88					
作業療法学科	4	40	—	160	学士 (保健科学)	1.08	平成11年度				
言語聴覚療法学科	4	40	—	160	学士 (保健科学)	0.80	平成11年度				
視機能療法学科	4	40	—	160	学士 (保健科学)	0.56	平成11年度				
臨床工学科	4	40	—	160	学士 (保健科学)	1.08	平成19年度				
薬学部						0.95					
薬学科	6	140	2年次3 4年次3	944	学士 (薬学)	0.95	平成15年度				
動物生命薬科学科	4	30	—	120	学士 (動物生命薬科学)	1.00	平成20年度				
通信教育部社会福祉学部						0.18					
臨床福祉学科	4	500	2年次30 3年次150 4年次10	2400	学士 (社会福祉学)	0.18	平成14年度				

既設大学等の状況	大学の名称	吉備国際大学短期大学部							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	保健科 総合美容専攻	2	60	—	180	短期大学士 (保健科学)	0.19 0.19	平成23年度	岡山県岡山市 北区岩田町2-5
附属施設の概要	名称	吉備国際大学文化財総合研究センター（大学13号館1階） 吉備国際大学臨床心理相談研究所（大学13号館2・3階） 吉備国際大学保健福祉研究所（大学15号館）							
	目的	学位分野の研究							
附属施設の概要	所在地	岡山県高梁市奥万田町3796-1（大学13号館） 岡山県高梁市奥万田町3794（大学15号館）							
	設置年月	平成15年4月（大学13号館） 平成20年3月（大学15号館）							
附属施設の概要	規模等	建物 1,414.85㎡（大学13号館） 1,157.80㎡（大学15号館）							
	名称	農場							
附属施設の概要	目的	学位分野の教育研究							
	所在地	①兵庫県南あわじ市志知松本字前川146, 147, 字井手ノ上158 ②兵庫県南あわじ市市三條山ノ神1782, 1783, 1784							
附属施設の概要	設置年月	①平成24年12月 ②平成25年3月							
	規模等	①6,941㎡ ②6,284㎡							

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要														
(アニメーション文化学部アニメーション文化学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
吉備国の学び	吉備から世界へ	1後	2			○				1				兼2
キャリア 教育 科目	キャリア開発Ⅰ	1前	2			○			1					
	キャリア開発Ⅱ	2後		2		○			1					
	キャリア開発Ⅲ	3後		2		○			1					
情報教育科目	情報処理Ⅰ	1前		2			○		1					
	情報処理Ⅱ	1後		2			○				1			
総合A群	外国語	英語Ⅰ	1前		2		○			1				
		英語Ⅱ	1後		2		○			1				
		英語Ⅲ	2前		2		○			1				
		英語Ⅳ	2後		2		○			1				
		フランス語Ⅰ	1前		2		○							兼1
		フランス語Ⅱ	1後		2		○							兼1
		フランス語Ⅲ	2前		2		○							兼1
		フランス語Ⅳ	2後		2		○							兼1
	言語教育科目	ドイツ語Ⅰ	1前		2		○		1					
		ドイツ語Ⅱ	1後		2		○		1					
		ドイツ語Ⅲ	2前		2		○		1					
		ドイツ語Ⅳ	2後		2		○		1					
		中国語Ⅰ	1前		2		○							兼1
		中国語Ⅱ	1後		2		○							兼1
		中国語Ⅲ	2前		2		○							兼1
		中国語Ⅳ	2後		2		○							兼1
日本語	日本語Ⅰ春	1前		2		○								兼3
	日本語Ⅰ秋	1後		2		○								兼3
	日本語Ⅱ春	2前		2		○								兼1
	日本語Ⅱ秋	2後		2		○								兼1
	応用日本語Ⅰ春	1前		2		○								兼3
	応用日本語Ⅰ秋	1後		2		○								兼3
	応用日本語Ⅱ春	2前		2		○								兼1
	応用日本語Ⅱ秋	2後		2		○								兼1
	日本語研究Ⅰ春	1前		2		○								兼3
	日本語研究Ⅰ秋	1後		2		○								兼3
	日本語研究Ⅱ春	2前		2		○								兼1
	日本語研究Ⅱ秋	2後		2		○								兼1
小計(34科目)		—	4	64	0	—	—	3	2	1	0	0	兼9	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	1・2・3・4前	2		○			1								兼1	
		文学への招待	1・2・3・4前	2		○												
		美術の見方	1・2・3・4後	2		○				1								兼1
		音楽のたのしみ	1・2・3・4後	2		○												兼1
		生涯スポーツ論	1・2・3・4後	2		○												兼1
		生涯スポーツ実習	1・2・3・4前	1					○									兼1
	世界認識・自己理解	哲学	1・2・3・4前	2		○				1								
		宗教学	1・2・3・4前	2		○				1								
		倫理学	1・2・3・4後	2		○				1								
		心理学	1・2・3・4前	2		○												兼1
		多文化理解	1・2・3・4前	2		○												兼1
	社会と制度	日本国憲法	1・2・3・4前	2		○												兼1
		民法	1・2・3・4前	2		○												兼1
		経済学	1・2・3・4前	2		○												兼1
		社会学	1・2・3・4後	2		○												兼1
		人権と政治	1・2・3・4前	2		○												兼1
		社会と統計	1・2・3・4後	2		○												兼1
	自然と数理	環境科学	1・2・3・4前	2		○												兼1
		物理学	1・2・3・4後	2		○												兼1
		生物学	1・2・3・4前	2		○												兼1
		化学	1・2・3・4前	2		○												兼1
		人類生態学	1・2・3・4後	2		○												兼1
		統計学	1・2・3・4前	2		○					1							
		数学	1・2・3・4前	2		○					1							
小計 (24科目)			—	0	47	0	—		1	2	0	0	0			兼16	—	
総合C群	国際社会文化領域	日本文化史	1・2・3・4前	2		○											兼1	
		日本史 I	1・2・3・4前	2		○											兼1	
		日本史 II	1・2・3・4後	2		○											兼1	
		東洋史 I	1・2・3・4前	2		○											兼1	
		東洋史 II	1・2・3・4後	2		○											兼1	
		西洋史 I	1・2・3・4前	2		○											兼1	
		西洋史 II	1・2・3・4後	2		○											兼1	
		地域研究 C	1・2・3・4後	2		○												兼1
		地域研究 F	1・2・3・4後	2		○												兼1
		国際関係史	1・2・3・4前	2		○												兼1
		近代東アジア史	1・2・3・4後	2		○												兼1
		都市と農村の社会学	1・2・3・4前	2		○												兼1
	実践外国語領域	実践英語 A	1・2・3・4前	2		○												兼1
		実践英語 B	1・2・3・4後	2		○												兼1
		Communicative English	1・2・3・4後	2		○												兼1
		実践韓国語 A	1・2・3・4前	2		○												兼1
		実践韓国語 B	1・2・3・4後	2		○												兼1
		実践韓国語 C	1・2・3・4前	2		○												兼1
実践中国語 A	1・2・3・4前	2		○												兼1		
実践中国語 B	1・2・3・4後	2		○												兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合C群 他分野理解教養科目	スポーツ学領域	スポーツリーダーシップ論	1・2・3・4後	2		○									兼1
		スポーツ産業論	1・2・3・4前	2		○									兼1
		社会スポーツ概論	1・2・3・4後	2		○									兼1
		スポーツ哲学	1・2・3・4前	2		○									兼1
		スポーツ史	1・2・3・4後	2		○									兼1
	保健医療福祉領域	行動生物学	1・2・3・4後	1		○									兼1
		栄養学	1・2・3・4後	1		○									兼1
		微生物学Ⅰ	1・2・3・4前	1		○									兼1
		公衆衛生学	1・2・3・4後	1		○									兼1
		薬理学	1・2・3・4前	2		○									兼1
		看護学概論	1・2・3・4前	2		○									兼1
		生活援助論Ⅰ	1・2・3・4前	1		○									兼1
		学校保健学	1・2・3・4後	2		○									兼1
		リハビリテーション概論	1・2・3・4前	1		○									兼1
		作業療法概論	1・2・3・4前	1		○									兼1
		社会福祉事業史Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1
		社会福祉事業史Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1
		国際人道援助計画論	1・2・3・4後	2		○									兼1
		東洋医学概論	1・2・3・4前	2		○									兼1
	ボランティア論Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
	ボランティア論Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	心理学領域	神経解剖学	1・2・3・4後	2		○									兼1
		医学概論Ⅰ	1・2・3・4前	2		○									兼1
		医学概論Ⅱ	1・2・3・4後	2		○									兼1
		社会福祉原論	1・2・3・4後	2		○									兼1
		臨床心理学	1・2・3・4前	2		○									兼1
		学習心理学	1・2・3・4前	2		○									兼1
		発達心理学	1・2・3・4前	2		○									兼1
		社会心理学	1・2・3・4前	2		○									兼1
		認知心理学	1・2・3・4後	2		○									兼1
		健康心理学	1・2・3・4後	2		○									兼1
		人格心理学	1・2・3・4前	2		○									兼1
		産業心理学	1・2・3・4前	2		○									兼1
心理療法		1・2・3・4後	2		○									兼1	
子どもの心理発達		1・2・3・4後	2		○									兼1	
	小計 (55科目)	—	0	103	0	—			0	0	0	0	0	兼33	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
現代 日本文化科目	日本文化論Ⅰ	1前		2		○									兼1
	日本文化論Ⅱ	1後		2		○									兼1
	日本美術史Ⅰ	1前		2		○									兼1
	日本美術史Ⅱ	1後		2		○									兼1
	日本文学概論	2後		2		○									兼1
	言語と文化	2後		2		○			1						
	紙と表現文化Ⅰ	2前		2		○			1						
	紙と表現文化Ⅱ	2後		2		○			1						
	産業と技術の歴史	1前		2		○				1					
	デジタルメディアと社会	1後		2		○				1					
小計(10科目)		—	0	20	0	—		2	1	0	0	0	0	兼3	—
専門教育科目 アニメーション文化科目	アニメーション文化論Ⅰ	1前	2			○			1						
	アニメーション文化論Ⅱ	1後	2			○			1						
	マンガ文化論	2後		2		○			1						
	コンテンツ文化・産業論Ⅰ	2前		2		○			1						
	コンテンツ文化・産業論Ⅱ	2後		2		○			1						
	日本マンガ史概論	2前		2		○				1					
	マンガ・アニメ翻訳概論	2後		2		○				1					
	アニメーション基礎Ⅰ	1前	2				○								兼1
	アニメーション基礎Ⅱ	1後	2				○			1					
	アニメーション演習Ⅰ	2前		2			○				1				兼1
	アニメーション演習Ⅱ	2後		2			○				1				
	アニメーション概論	1前		2		○									兼1
	映像の企画・構成	2前		2		○			1						
	動画像基礎	1後		2			○								兼1
	シナリオ制作	2後		2		○			1						
	キャラクター創作	3後		2			○			1					
	撮影光学	1前		2		○									兼1
	映像概論	2前		2		○									兼1
	映像音響概論	3後		2		○									兼1
	コンピュータグラフィックス基礎Ⅰ	2前		4			○				1				
	コンピュータグラフィックス基礎Ⅱ	2後		4			○				1				
	2DCGアニメーション演習	3前		4			○				1				
	3DCGアニメーション演習	3後		4			○				1				
	デッサン基礎Ⅰ	1前		2			○				1				
	デッサン基礎Ⅱ	1後		2			○				1				
	背景美術Ⅰ	2前		2			○								兼1
	背景美術Ⅱ	2後		2			○								兼1
	広告原理	3前		2			○								兼1
	ジャーナリズム論	3後		2			○								兼1
	メディア倫理学	3後		2			○			1					
クリティカルシンキング	2前		2			○			1						
ブランド戦略と知的財産	2前		2			○								兼1	
出版・マンガの著作権	3前		2			○			1						
デジタルメディアと著作権	3後		2			○			1						
キャラクターコンテンツ基礎Ⅰ	1前		2			○			1						
キャラクターコンテンツ基礎Ⅱ	1後		2			○			1						
小計(36科目)		—	8	72	0	—		2	3	1	0	0	0	兼9	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	プロデュース基礎Ⅰ	2前		2		○			1						兼1
	プロデュース基礎Ⅱ	2後		2		○			1						
	プロデュース演習Ⅰ	3前		2			○		1						
	プロデュース演習Ⅱ	3後		2			○		1						
	実践的映像プロデュース論	3前		2		○									
	インターンシップ	3前		2				○	1						
	基礎演習Ⅰ	1前	2				○		4	4	1				
	基礎演習Ⅱ	1後	2				○		4	4	1				
	演習Ⅰ	2前	2				○		4	4	1				
	演習Ⅱ	2後	2				○		4	4	1				
	演習Ⅲ	3前	2				○		4	4	1				
	演習Ⅳ	3後	2				○		4	4	1				
	演習Ⅴ	4前	2				○		4	4	1				
	演習Ⅵ	4後	2				○		4	4	1				
	卒業論文	4通	4				○		4	4	1				
小計（15科目）	—	—	20	12	0	—	—	4	4	1	0	0	兼1	—	
合計（174科目）	—	—	32	318	0	—	—	4	4	1	0	0	兼65	—	
学位又は称号		学士（アニメーション文化学）		学位又は学科の分野			美術関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
教養科目（総合A群・B群・C群）30単位以上修得及び専門教育科目94単位以上修得し合計124単位以上修得。							1学年の学期区分		2			学期			
							1学期の授業期間		15			週			
							1時限の授業時間		90			分			

吉備国際大学アニメーション文化学部アニメーション文化学科

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

ア 設置の趣旨及び必要性	1
(1) 設置の必要性と背景	
(2) 教育研究上の目的と養成する人材像	
イ 学生確保の見通しと社会的な人材需要	3
(1) 入学定員設定の考え方とその根拠となる学生確保の見通し	
(2) 卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要	
ウ 学部、学科等の特色	5
エ 学部、学科等の名称及び学位の名称	6
オ 教育課程の編成の考え方及び特色	6
(1) 教養科目	
(2) 専門教育科目	
カ 教員組織の編成の考え方及び特色	9
キ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	9
(1) 教育方法	
(2) 履修指導方法	
(3) 卒業要件	
ク 施設、設備等の整備計画	12
ケ 入学者選抜の概要	13

シ 企業実習や学外実習の具体的計画	・ ・ ・ ・ ・ 1 5
(1) インターンシップの具体的計画	
テ 管理運営	・ ・ ・ ・ ・ 1 6
(1) 外国人留学生の受入れ体制について	
ト 自己点検・評価	・ ・ ・ ・ ・ 1 6
ナ 情報公開	・ ・ ・ ・ ・ 1 7
ニ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組	・ ・ ・ ・ ・ 1 9
ヌ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	・ ・ ・ ・ ・ 2 0

吉備国際大学アニメーション文化学部アニメーション文化学科

設置の趣旨等を記載した書類

ア 設置の趣旨及び必要性

(1) 設置の必要性と背景

吉備国際大学は、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念を掲げ、平成2年の開学以来、社会の要請に応える学部、学科を開設してきた。現在、社会科学部、保健医療福祉学部、心理学部、文化財学部、地域創成農学部の5学部に加え、それぞれの学部を基礎とした大学院修士課程、博士課程及び通信制の学部、大学院を整備し、人間性の涵養と各分野における専門的な教育研究に取り組み、これまで多くの人材を輩出してきた。その中で、平成22年度には文化財学部アニメーション文化学科を開設し、我が国のアニメーションのより一層の振興を図るための人材養成に取り組んできたところである。

この度、平成26年度にむけて文化財学部を学生募集停止することとなり、併せて、文化財学部アニメーション文化学科も学生募集停止することとなった。しかしながら、アニメーションは、日本の優れた文化として海外からも高い評価をうけており、今後の発展が非常に期待される分野であることから、吉備国際大学の一つの特色として、この度、新たに「アニメーション文化学部」の開設を計画するものである。

新しい学部学科の設置の趣旨と必要性については、まず、平成22年度に文化財学部アニメーション文化学科が設置された理由の一つとして、それまでサブカルチャーとしてあまり評価の対象にならなかったマンガやアニメーションに、日本の新しい文化的価値を見出し、それを支援しようという国の新たな政策決定があったことがあげられる。

2001年、国は「文化芸術振興基本法」を定めて、「映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術」をメディア芸術と定義し、その振興策の必要性に言及した。その背景には、加工組立・大量生産に代表される従来の日本型生産システムがアジア諸国の追い上げや国内の少子・高齢化の問題等によって頭打ちとなり、そのため、これまでの「ものづくり」から、技術、デザイン、ブランドや音楽、アニメーション、映画等のコンテンツといった価値ある「情報づくり」、すなわち付加価値の高い知的財産の創造に力点を移さざるを得ないという特殊な事情があった。

さらに、2010年には「新成長戦略2010」が閣議決定され、「拡大したアジア市場

に対して、日本のコンテンツ、デザイン、ファッション、料理、伝統文化、メディア芸術等の『クリエイティブ産業』を対外発信し、日本のブランド力の向上や外交力の強化につなげるとともに、著作権等の侵害対策についても国際的に協調して取り組む」ことが確認されている。こうした国の政策は、その後首相が代わっても、さらには政権が交代しても、変わることはなかった。むしろ自民党政権になってからは、「クールジャパン戦略担当大臣」や「クールジャパン推進会議」が設けられるなど、方針が強化されたと言ってもよいぐらいである。ただ、「新成長戦略2010」の中では、課題として「わが国のファッション、コンテンツ、デザイン、食、伝統・文化・観光、音楽などの『クール・ジャパン』は、その潜在力は成長に結びついておらず、今後はこれらのソフトパワーを活用し、その魅力と一体となった製品・サービスを世界に提供することが鍵となっている」との認識も併せて述べられている。

こうした社会事情を背景に、アニメーション分野で求められているのは、アニメーションの文化的価値を深く理解し、日本文化の一つとして継承し育成しながら、日本の新しいコンテンツとして世界に発信することで、今後の発展を総合的に担える人材を養成することであると考える。こうした社会的ニーズに対応し、この度、新たに「アニメーション文化学部アニメーション文化学科」を開設するものである。

(2) 教育研究上の目的と養成する人材像

アニメーション文化とは、一方では紙媒体のマンガの伝統を引き継ぎ、他方ではTVや映画に代表される映像メディアに依拠した比較的新しい表現文化である。しかもそれが、日本の場合はかなり特徴的な形で進化・発展してきたという事情がある。本学科は、こうしたアニメーション文化の特質を理論的・歴史的・比較文化的・実践的手法などによって分析し、包括的で体系的な理解を得るための教育と研究を行い、この分野で必要とされる人材の養成を目指している。

したがって、先にも述べたように、本学科の教育研究上の目的は、

「アニメーションの文化的価値を深く理解し、日本文化の一つとして継承し育成しながら、日本の新しいコンテンツとして世界に発信することで、今後の発展を総合的に担える人材を養成する」

とする。

近年、マンガ、アニメーション、ゲームなどの日本のメディア芸術は世界で広く親しまれている。中でも、アニメーションは、日本が世界に誇る文化の一つとして国際的に高い評価を得ている。2002年に第52回ベルリン国際映画祭で宮崎駿監督の「千と千尋の

神隠し」がアニメーション映画として初めて最高賞を受賞するなど、海外の様々な映画祭で多くの賞を受賞し、我が国のアニメーションが文化的、芸術的に非常に優れたものであることを証明している。

それでは、なぜ日本のアニメーションが海外で高い評価を受けるのか。その理由の一つは、日本のアニメーションの独自性にあると言ってよいであろう。例えば、日本のアニメーション技術は伝統的な手描きアニメーションとCG技術の融合によって発展してきたが、世界的に見ればCGアニメーションが中心であり、手描きは衰退してしまっている。また、壮大かつ緻密に練られたストーリーもそうである。一般的に海外でアニメーションは子ども向けとして定着しているのに対し、日本では幼児、少年、少女、青年、ビジネスマンや主婦など、ターゲットが細分化され、それぞれに向けた設定で描かれている。また、「コスプレ」、「コミケ」、「フィギュア」など、いわゆるオタク文化とよばれる日本のアニメーションやマンガの熱狂的なファンがつくり出した消費文化も海外のファンを魅了してやまない。こうした進化・発展がもたらした独自性は、日本特有の繊細さや感性といった長所、さらには日本人の精神性に起因していると見ることができる。

昨今、クールジャパンとしてアニメーションなどの積極的な国際展開が検討されるようになったが、それにはまず、日本人自身が、こうした日本のアニメーションの独自性や特質をきちんと認識しなければならない。その上で、アニメーションは我が国の誇るべき文化芸術であると位置づけて、世界に向けて発信していくことが、今後の発展の鍵となると言えよう。

そのようなことから、本学科が研究対象とするのは、主にアニメーションの美術的価値を含めた文化的側面であり、学問分野としては美術および文化研究が中心となるであろう。アニメーションを娯楽として部分的、断片的に捉えるのではなく、古くから続く日本の文化の上に成り立っている現代文化として、理論的に、歴史的に、様々な視点から研究することで、日本のアニメーションの真の文化的価値を追求したい。

イ 学生確保の見通しと社会的な人材需要

(1) 入学定員設定の考え方とその根拠となる学生確保の見通し

近年、我が国においては、アニメーションやマンガをはじめとするコンテンツ産業の人材養成が急務となっている状況から、多くの大学がこの分野の人材養成に取り組んでいる。もともと、これまではマンガ、アニメーション関連業界を支える人材養成は、そのほとんどが専門学校で制作技術の専門教育として行われていた。こうした専門学校での教育と比較するならば、大学におけるこうした人材養成は、技術習得の専門教育に加えて、教養教育や人間性の涵養といった社会人基礎力を育むという強みを有しており、そうした進学

希望をもつ者は少なくないと考えられる。

平成25年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団 私立学経営情報センター）によると、学部系統別の動向「芸術系」の志願倍率は平成24年度2.69倍、平成25年度2.79倍となっている。そのうち音楽学部、造形学部、美術学部、デザイン学部及びその他学部を除き、アニメーション関係の学科の多くが含まれる「芸術学部」に絞った志願倍率を見ても、平成24年度2.70倍、平成25年度2.65倍と、多くの志願者を集めている。（資料1）

また、アニメーション関係の学科を設置する大学について、個別に学科の志願倍率や入学定員充足率を見ると、いずれの学科も多くの志願者を集め、安定した入学生確保を実現していることがわかる。加えて、近年のクールジャパンと呼ばれるアニメーションやマンガなどのメディア芸術の振興や、またそれらを扱うコンテンツ産業への国内、国外における関心の高まりを加味すると、学生の確保の見込みは十分あると考えられる。

以上のことを踏まえて、アニメーション文化学部アニメーション文化学科の入学定員は40名、収容定員は160名としているが、これは長期的かつ安定的に学生を確保するという観点から適切な定員設定であると考えられる。

（2）卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

我が国のコンテンツ産業の目指すべき将来像として、「コンテンツ産業の成長戦略に関する研究会報告書」（平成22年5月14日経済産業省）によると、コンテンツ産業において、制作と事業展開を担う人材を育成し、国内外市場での違法コンテンツ対策を進め、海外市場の潜在的利益を現実化すること等により、2020年には、コンテンツ産業の国内外の売上高は、現在の15兆円程度から20兆円程度に増加すると見込まれている。また、海外の売上高は、上位5分野（現在は自動車、半導体、鉄鋼、自動車部品、船舶）に入る規模となり、雇用者数は5万人増になると予測されており、コンテンツ産業を担う人材の需要は今後益々増大すると考えられる。（資料2）

また、卒業後の具体的な進路について見てみると、まず、アニメーションなどのコンテンツを制作するクリエイターやコンテンツを消費者に届けるプロデューサーとして、アニメーション制作会社、TV番組制作会社、映像販売会社、キャラクターグッズ制作販売会社、ゲーム会社、出版社、音楽制作プロダクション、レコード会社、イベント企画会社等への就職が考えられる。さらに、関連業界としては放送局などのマスメディア関連会社、広告会社、デザイン会社等が挙げられるほか、一般企業等においても、企画、調査開発、広報部門等が進路として想定される。

近年、「ゆるキャラ」を筆頭に、企業イメージ、地域イメージのプロモーションなどにキャラクターやマンガ、アニメーションが活用される機会が急激に増えている。直接、アニメーションに関連する業界以外にも、一般企業、国、地方公共団体など、今後このような

活用は益々拡大すると考えられる。アニメーションやキャラクターの制作・運用のノウハウを持つ学生の需要は大いに期待できる。

ウ 学部、学科等の特色

吉備国際大学は、平成2年に社会学部の単科大学として発足した後、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念のもと、時代のニーズに柔軟に対応して、現在では社会科学部、保健医療福祉学部、心理学部、文化財学部、そして今年度から新たに地域創成農学部を加え、5学部12学科と通信制学部、大学院及び通信制大学院を有する総合大学へと発展してきた。18歳人口が約120万人規模で推移する時期にあつて、本学も一層の個性・特色の明確化を図り「オンリーワン大学」を目指している。中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の機能で言うならば、本学が担う機能としては、主に②高度専門職人材養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）が挙げられるが、アニメーション文化学部アニメーション文化学科も、その中で特に②、③、④に関係する役割を担うものと考えている。

アニメーション文化学部アニメーション文化学科の教育内容は、アニメーション関連科目、美術関連科目、知的財産関連科目、現代日本文化関連科目を配置し、広く人文科学を基礎としたカリキュラム体系になるよう編成されている。そのため専門科目のカリキュラム全体が、広く日本文化や日本美術の歴史と今を概観する科目、文化としてのマンガやアニメーションを理論的・歴史的・比較文化的に学ぶ科目、現場の企画・作画・編集といった作品制作や美術表現などを実践的に学ぶ科目、さらにそれらを統合し、日本のアニメーション文化を世界に向けて発信するための科目という大きな柱から構成することとした。この中で、本学科のカリキュラムの特徴は、アニメーションの知識や技術を修得した上で、日本のアニメーションの持つ美術的・文化的価値を学ぶことを重視した教育内容としている。

本学科の人材養成の目的は、「アニメーションの文化的価値を深く理解し、日本文化の一つとして継承し育成しながら、日本の新しいコンテンツとして世界に発信することで、今後の発展を総合的に担える人材を養成する」ことであるから、それに相応しい十分な科目を用意している。

エ 学部、学科等の名称及び学位の名称

本学科は、日本のメディア芸術を代表するアニメーションが有する文化的価値に特に焦点を定めていることから、学部・学科の名称、および学位の名称は次の通りとする。

学部の名称

アニメーション文化学部 (英訳名称 School of Animation Culture)

学科の名称

アニメーション文化学科 (英訳名称 Department of Animation Culture)

学位の名称

学士 (アニメーション文化学) (英訳名称 Bachelor (Animation Culture))

オ 教育課程の編成の考え方及び特色

本学科の人材養成の目的は、「アニメーションの文化的価値を深く理解し、それらを日本文化の一つとして継承し育成しながら、日本の新しいコンテンツとして世界に発信することで、今後の発展を総合的に担える人材を養成する」ことである。また、養成する人材の卒業後の進路については、アニメーター、イラストレーター、映像作家、プロデューサー、ディレクター、一般企業（企画・広報・宣伝・営業などの部門）、マスメディア（新聞・出版・放送・広告など）などを考えている。

こうした目標を実現するために、アニメーション文化学科では、教養科目（総合A群・B群・C群）から30単位以上を、専門教育科目からは94単位以上を修得し、合計124単位以上の単位取得をもって卒業要件を満たすと定め、アニメーション文化についての知識と実践を総合的に教授するものである。

(1) 教養科目

中央教育審議会「新しい時代における教養教育の在り方について（答申）」（平成14年2月21日）には大学における教養教育について次のように書かれている。

「3 大学における教養教育（1）大学における教養教育の課題

社会が複雑かつ急激な変化を遂げる中で、各大学には、幅広い視野から物事を捉え、高い倫理性に裏打ちされた的確な判断を下すことができる人材の育成が一層強く期待されて

いる。(中略) 新たに構築される教養教育は、学生に、グローバル化や科学技術の進展など社会の激しい変化に対応し得る統合された知の基盤を与えるものでなければならない。各大学は、理系・文系、人文科学、社会科学、自然科学といった従来の縦割りの学問分野による知識伝達型の教育や、専門教育への単なる入門教育ではなく、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法などの知的な技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養など、新しい時代に求められる教養教育の制度設計に全力で取り組む必要がある。」

本学では、以上のような中央教育審議会答申などを踏まえ、教養教育の充実を重ねた結果、現在の教養教育カリキュラムを構築している。これは本学が目指す「豊かな人間性と高い専門性を兼ね備えた個性ある人材」の養成に必要な学部の枠を超えた、いわば吉備国際大学生の土台を形成するためのカリキュラムとなっている。

教養科目の具体的なカリキュラム編成については、基礎的な教養を身につけさせるための教養科目として、総合A群（吉備国の学び、キャリア教育科目、情報教育科目、言語教育科目）、総合B群（一般教養科目）および総合C群（他分野理解教科目）からなる教養科目を開設している。

総合A群には吉備国の学び、キャリア教育科目及び言語教育科目を配置している。吉備国の学びでは本学独自科目として「吉備から世界へ」を開講している。キャリア教育科目である「キャリア開発Ⅰ」、「キャリア開発Ⅱ」、「キャリア開発Ⅲ」は1、2、3の各年次に開講し、卒業後のキャリアを意識させることにより人間性の涵養を目指している。言語教育科目は「英語Ⅰ～Ⅳ」、「フランス語Ⅰ～Ⅳ」、「ドイツ語Ⅰ～Ⅳ」、「中国語Ⅰ～Ⅳ」を開講し、留学生用の科目として「日本語Ⅰ春・秋、Ⅱ春・秋」、「応用日本語Ⅰ春・秋、Ⅱ春・秋」、「日本語研究Ⅰ春・秋、Ⅱ春・秋」を開講している。

総合B群は「文学への招待」、「美術の見方」など人間性の涵養科目群、「哲学」、「心理学」などの世界認識・自己理解科目群、「日本国憲法」、「民法」などの社会と制度科目群、「物理学」、「化学」などの自然と数理科目群を開講し、幅広く一般教養が身につけられるようになっている。加えて、いろいろな学問分野に興味がある学生のために総合C群を開講し、学びの意欲が高い学生への配慮も行っている。教養科目は総合C群を除いて1、2年次において履修するよう指導を行う計画である。

(2) 専門教育科目

専門教育科目は、「現代日本文化科目」「アニメーション文化科目」「専門応用科目」という科目区分から成り立っている。

「現代日本文化科目」は広く日本文化と日本美術の歴史と今を対象とし、マンガやアニ

メーションを取り巻く文化的環境を広く概観するものである。具体的な科目としては「日本文化論Ⅰ・Ⅱ」、「日本文学概論」、「日本美術史Ⅰ・Ⅱ」、「紙と表現文化Ⅰ・Ⅱ」、「産業と技術の歴史」、「デジタルメディアと社会」などがあり、教養科目の「文学への招待」、「日本文化史」、「日本史Ⅰ・Ⅱ」などと合わせて日本文化と日本美術の歴史と今について理解を深め、「アニメーション文化科目」へと繋げてゆく。

「アニメーション文化科目」は主に、文化としてのマンガやアニメーションを理論的・歴史的・比較文化的に学修・研究する科目と、現場の企画・作画・編集といった作品制作や美術表現などを実践的に学ぶ科目から構成されている。前者には「アニメーション文化論Ⅰ・Ⅱ」、「コンテンツ文化・産業論Ⅰ・Ⅱ」、「マンガ文化論」、「日本マンガ史概論」、「マンガ・アニメ翻訳概論」などが含まれ、後者には「アニメーション基礎Ⅰ・Ⅱ」、「アニメーション演習Ⅰ・Ⅱ」、「シナリオ制作」、「デッサン基礎Ⅰ・Ⅱ」、「背景美術Ⅰ・Ⅱ」などがあり、これら以外にも、今日重要な知的財産を扱うものとして、「デジタルメディアと著作権」、「出版・マンガの著作権」、「ブランド戦略と知的財産」なども用意されている。

「専門応用科目」は本学科の目的のうち「日本の新しいコンテンツとして世界に発信する」部分に該当し、それまでの教育課程で得た知識を統合し、調和させ、世界に向けて展開するために必要な能力を身につける科目群である。具体的には「プロデュース基礎Ⅰ・Ⅱ」、「プロデュース演習Ⅰ・Ⅱ」や「インターンシップ」を配置している。また、講義や演習で得た知識をもとに、各学生が自らの興味や関心を追求していくために1年次には「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を、2年次以降は「演習Ⅰ～Ⅵ」を学年順に配している。これらの科目群は学科の教員全員が担当することになっており、少人数の演習で密度の濃い学修が実現できるであろう。それに合わせて4年次では、「卒業論文」（中身としては卒業制作も含む）が開講されている。

本学科では、日本のアニメーションの文化的価値を理解し、発信していくことでアニメーション文化の振興に寄与することを人材養成の目的としている。そのためにはアニメーションを大衆の娯楽として部分的、断片的に捉えるだけでなく、古くから続く日本固有の文化の上に成り立っている現代文化として、理論的、歴史的な視点から理解できるように科目を配置している。また、アニメーション文化を発信していくために必要な知識についても、文化としての理論的、歴史的な知識だけでなく、作品制作や美術表現といった制作から運用までも含めた幅広い知識が習得できる内容となっている。

以上のように、教養科目、現代日本文化科目、アニメーション文化科目、専門応用科目の各科目区分と、その区分内の各科目が連携することによって、より体系的かつ効果的な学修ができるよう配置している。

カ 教員組織の編成の考え方及び特色

アニメーション文化学部アニメーション文化学科の教員組織は、入学定員40名に対して、教授4名、准教授4名、講師1名の合計9名の専任教員を配置しており、その年齢構成は、開設時において、60歳代2名、50歳代6名、40歳代1名となっており、教育研究水準の維持向上及び活性化には支障がないと考える。

本学科の研究対象であるマンガやアニメーションなどのサブカルチャーを中心とする文化研究や、教育課程における中核的な科目である「アニメーション文化論Ⅰ・Ⅱ」、「マンガ文化論」、「コンテンツ文化・産業論Ⅰ・Ⅱ」、「キャラクターコンテンツ基礎Ⅰ・Ⅱ」、「プロデュース基礎Ⅰ・Ⅱ」、「プロデュース演習Ⅰ・Ⅱ」等の教育にあたっては実務経験が豊富な教員が担当することになっている。アニメーションプロデューサーとして数多くのアニメーション製作に携わった経験による実践的な知識は学科の教育、研究に活かされるだけでなく、学生が将来のキャリアビジョンを描くにあたって、身近で具体的な目標となり極めて有効であると考えている。

また、その他の専任教員は、具体的には教育課程における文化に関する科目、美術に関する科目、アニメーションに関する科目、映像やメディアに関する科目、著作権に関する科目等を担当するが、それぞれ十分な教育研究実績を備えた教員を配置し、本学科の設置の趣旨及び教育・研究目標を達成するための体制を整えている。

さらに、本学科の設置に伴い、学科の専任教員のほかに、学内の他学部他学科に在籍する教員を兼担として配置し、学生へ充実した教育指導が実施できる全学的な教員組織の編成と成っている。

キ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

本学科が目指す人材養成の基本理念、学問体系を学生の入学当初に十分に教授する必要があることから、1年次の必修科目として「アニメーション文化論Ⅰ・Ⅱ」、「アニメーション基礎Ⅰ・Ⅱ」を配置する。また、学生指導の基本方針として、学生一人ひとりに対する個別的な指導を重視することから、1年次に「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として配置し、学生を少人数グループに分け、各専任教員が担当して指導を行う。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、全学科教員が担当し、科目担当者としてだけでなく、チューターとして、履修指導や勉学に関する相談や指導はもとより、学生生活全般にわたる個別の相談や指導を行う。2年次から4年次は、必修科目として、「演習Ⅰ～Ⅵ」及び「卒業論文」を配置し、各学生の希望する研究テーマと各教員の専門領域との調整を行い、ゼミ配属を決定する。この場

合も、ゼミ担当教員は、演習や卒業論文の指導だけではなく、履修指導や就職に関する相談なども含め、学生生活全般にわたる個別の相談・指導を行う。

(2) 履修指導方法

毎年度始めに学年別にオリエンテーションを開催し、学生に学生便覧、シラバス、時間割、履修モデル等の資料を示し、卒業要件、資格取得に必要な科目、履修方法などについて具体的な説明と質疑応答を行う。また、オリエンテーションのプログラムに学部長・学科長の講話の時間を設け、学部・学科の教育目標、教育課程の編成や実施方法等について周知し、勉学に取り組む姿勢や態度などについて指導する。

また、全体のオリエンテーションに加えて、随時、事務窓口での職員による個別指導やチューター（演習担当教員）による個別の指導・助言を行い、学生の適正や希望する進路に沿った、適切な履修ができるよう支援する。

・ 1年次

新入生に対しては前述の学生対象の学年別オリエンテーションとは別に、入学宣誓式後に保護者・新入生合同のオリエンテーションを開催する。このオリエンテーションには全ての専任教員が参加して、学部・学科の理念及び目的、教育課程の概要、卒業要件などについて説明し、大学と保護者が共通認識をもち、在学期間中、相互に協力して学生を支援していくための契機とする。また、全体オリエンテーションにおいて、特に1年生に対しては、卒業要件、単位制、必修科目と選択科目など、大学での学修の方法について、詳細に説明する。秋学期始めに、1年次春学期の成績表をチューター（基礎演習担当教員）から学生に個別に配付し、同時に学修指導や相談を行う。また、2年次以降の演習（ゼミ）の配属を行うため、チューターは学生の適正や希望について、相談、助言を行う。

・ 2年次

春学期始めに、1年次秋学期の成績表をチューター（演習担当教員）から学生に個別に配付し、1年次の成績を確認し、2年次の履修に関する相談や指導を行う。また、学生の研究分野に沿った授業科目の履修に関する相談や指導を行う。秋学期の始めには2年次春学期の成績表をチューターから学生に個別に配付し、同時に学修指導や進路に関する相談、助言を行う。

・ 3年次

春学期始めに、2年次秋学期の成績表をチューター（演習担当教員）から学生に個別に配付し、2年次までの成績を基に、学生の研究分野に沿った単位取得状況の確認と授業科

目の履修に関する相談や指導を行う。また、秋学期の始めには、3年次春学期の成績表をチューターから学生に個別に配付し、同時に学修や進路に関する相談、助言を行う。

・4年次

春学期始めに、3年次秋学期の成績表をチューター（演習担当教員）から学生に個別に配付し、3年次までの成績を基に、卒業要件に対する単位取得状況の確認や就職活動に関する相談や指導を行う。

また、秋学期の始めには、4年次春学期の成績表をチューターから学生に個別に配付し、就職活動の状況や卒業に向けた相談・助言を行う。さらに、秋学期には必修科目である卒業論文（卒業制作）を仕上げるが、卒業論文（卒業制作）の指導と同時に、全4年次生が希望の進路に進めるよう、常に学生とコミュニケーションをとって相談、指導を行う。

なお、年間の履修上限単位は49単位とし、学生に周知徹底する。また、他大学における授業科目の履修等については学則に以下の通り規定しており、本学部の授業の履修に支障のない範囲で履修を認め、所定の手続きを経て修得単位を認定する。

<学則（抜粋）>

（他大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第41条 本学は、教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。以下「他大学等」という。）との協議に基づき、本学学生に当該他大学等の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、教授会の議を経て、60単位を超えない範囲で本学の授業科目の履修により修得したものと認めることができる。

（大学以外の教育施設等における学修）

第42条 本学は、教育上有益と認めるときは、本学学生が短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、第41条第2項により本学において履修したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（3）卒業要件

卒業要件は、教養科目30単位以上、専門教育科目94単位以上、合計124単位以上を修得することとする。さらに加えて、科目区分ごとに以下の要件を課す。

教養科目は、総合A群から総合C群までで30単位以上（留学生は32単位以上）を修得することとする。

総合A群には、必修科目として吉備国の学びの「吉備から世界へ」、キャリア教育科目の「キャリア開発Ⅰ」を設けている。また、単位の修得条件を次の通り設定している。キャリア教育科目の「キャリア開発Ⅱ」、「キャリア開発Ⅲ」から1科目2単位以上修得すること。情報教育科目の「情報処理Ⅰ」、「情報処理Ⅱ」から1科目2単位以上修得すること。言語教育科目の「英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」から1言語4単位以上を含み8単位以上修得すること。

ただし、外国人留学生は「日本語Ⅰ春」、「日本語Ⅰ秋」、「応用日本語Ⅰ春」、「応用日本語Ⅰ秋」、「日本語研究Ⅰ春」、「日本語研究Ⅰ秋」の6科目12単位を必修科目とし、さらに、「日本語Ⅱ春」、「日本語Ⅱ秋」、「応用日本語Ⅱ春」、「応用日本語Ⅱ秋」、「日本語研究Ⅱ春」、「日本語研究Ⅱ秋」から2科目4単位以上を修得し、合計8科目16単位以上修得することとしている。

総合B群には必修科目は設けていないが、一般教養科目から4科目8単位以上を修得することを単位修得条件としている。

専門教育科目からは94単位以上を修得することとする。必修科目として「アニメーション文化論Ⅰ・Ⅱ」、「アニメーション基礎Ⅰ・Ⅱ」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「演習Ⅰ～Ⅵ」、「卒業論文」を修得することとしている。科目区分ごとに単位修得の要件は設けておらず、個々の学生の目指す進路や興味・関心により自由度の高い科目選択と履修を可能としている。

(資料3)

ク 施設、設備等の整備計画

本学のキャンパスがある岡山県高梁市は、町中を水量豊かな高梁川が流れ、周囲を緑の山々に囲まれた、自然の恵みにあふれたまちである。古くから備中松山城の城下町として「備中の小京都」と称され栄えてきたが、その情緒豊かで歴史のある高梁市は現在、学園文化都市として本学と一体となったまちづくりを推進しており、学生は安心して快適な学生生活をおくることができる環境である。

本学科を設置する高梁キャンパスは、山あいの豊かな緑に囲まれた静かなキャンパスであり、広大な校地（校舎敷地78,396.54㎡、運動場用地33,172.00㎡）の中には、講義室、演習室及び実習室、また図書館や食堂など、学生が勉学に集中し、それぞれの夢を追いかけるために必要な高機能な施設・設備を整えた校舎や研究施設が建ち並んでいる。運動用の施設についても、体育館、グラウンド、テニスコートなどを備え、授業はもちろん課外活動にも利用している。また、学内には学生ラウンジやオープンエア

の広々としたテラス、公園なども整備され、学ぶだけでなくコミュニケーションを広げたり、憩いの場として活用されたりしている。図書についても広い学問領域にわたる十分な収蔵冊数を有しており、ジャーナルデータベースについては大学全体で契約している。

特に本学科については、情報処理室の他に学科専用の PC 教室があり、Mac 及び Adobe Photoshop・Illustrator・After Effects 等のソフトウェアを 17 台揃えて、年次ごとのグループ制作に対応している。また、演習や卒業論文用に Mac を各 5 台揃えた学科専用室を 22 部屋整備している。以上のように、本学科の教育・研究に必要な校地、運動場や校舎等施設、設備図書等の環境はすでに整っており、新たな整備は行わない。

ケ 入学者選抜の概要

アニメーション文化学部アニメーション文化学科のアドミッションポリシーは、以下の通りとする。

「マンガ、アニメ、ゲームなどの単なる享受者に留まるのではなく、それらを現代日本文化を代表するものの一つとして積極的に捉え、多角的・総合的に調査・研究すると同時に、自らもその制作現場に関わってみたいと望む、好奇心と意欲に溢れた人材を求めています。」

このアドミッションポリシーのもと、入学者選抜は、AO入試、推薦入試、一般入試（前期・中期・後期）、大学入試センター利用入試により行う。

AO入試（専願制）については、学力試験では計りきれない資質、能力、個性を有する学生を受け入れ、積極的な学生生活を期待し、個々の能力をさらに引き伸ばし、社会に有為な人材を養成することをアドミッションポリシーとしており、特に、マンガ、アニメーションに強い関心や興味を持った学生を選抜する計画である。具体的には、本学の教育内容及び教育理念を理解した入学生を確保するためにも、まずは本学が実施するオープンキャンパスや説明会等に参加し、ミニ講義や実技体験などに参加した者を対象とする。その上で、AO入試受験希望者には本学教員が個別に面談を行い、入学意思や目的、また卒業後の将来像など、進学意欲を確認する。さらに、受験希望者には参加したミニ講義や面談内容等をもとに、志望動機などを参加報告書としてレポート形式でまとめた書類の提出を求め、面談内容及び提出された参加報告書を総合評価し、受験可否の通知を個別に行う。この通知を受け、受験可となり入学を希望する者は出願書類の提出を行い、面談・参加報告書及び出願書類（調査書等を含む）による学力把握などを行い、総合評価の結果により可否を判定する予定である。

ただし、開設年度の学生募集については、AO入試をはじめ、すべての入学者選抜にお

いて、学科設置が認められた後、入学希望者に誤解や被害を与えたりすることのないよう十分留意して適切に実施することとする。

次に、推薦入試においては、専願制及び併願制の入試形態を設ける予定である。学修意欲が明確な人材、学芸やスポーツに固有の能力を有し、ボランティア活動など社会的活動に熱心で且つ学科の教育理念と教育内容に賛同し、入学意欲の高い人材を選抜するものであり、いずれも出身高等学校長の推薦が得られる者が受験可能となる。具体的には、専願制による、本学が指定した高等学校の出身者が受験可能となる「指定校入試」、また一般公募で行う「特別推薦入試」を実施予定である。選考方法はいずれも面接試験と提出された出願書類による総合評価により行う計画である。その他に、併願制となる「推薦入試（A日程・B日程）」を予定し、A日程においては小論文試験を、B日程においては小論文試験及び面接試験を課し、出願書類にある調査書の評定平均を点数化するなど、多様な選考方法により選抜を行う予定である。

さらに、一般入試では、前期（1教科型・2教科型A方式・2教科型B方式）、中期（2教科型）、後期（1教科型）の三期に分類した入試を行う。選考教科は「国語」、「英語」、「数学」、「地歴」、「公民」、「理科」などの教科を設ける予定である。前期1教科型では「国語・英語・数学」より、前期2教科型A方式では「国語・英語・数学・地歴・公民」から2教科2科目、前期2教科型B方式では「国語・英語・数学・地歴・公民」から2教科2科目及び調査書の評定平均値を点数化した方式により選抜を行う。中期2教科型においては「国語・英語・数学・公民・理科」から2教科2科目、後期では「国語・英語・数学・理科」から1教科1科目での選抜を行う予定である。一般入試においても、こうした多様な実施形態を計画することで、優秀な入学生の確保を行いたいと考えている。

その他には、関連校入試、留学生入試、社会人入試、帰国子女入試などを実施する予定である。関連校入試は、本学のグループ姉妹校及び高大連携協定校など、関連の深い指定高等学校の出身者を対象とした入試形態を準備し「国語・英語・数学」から1教科1科目での選抜及び面接試験を計画している。

吉備国際大学では、開学当初より外国人留学生を受け入れてきた。本学科においても、本学科の教育目標に対する強い意志を持った志願者がいる場合には、外国人留学生についても、選抜の上、受け入れる予定である。

なお、選抜方法としては、日本語能力を選考基準として設け、面接試験により選考を行う。日本国内からの志願者は、本学教員による面接試験によって、入学後の目的・目標及び日本語能力を確認する。また、中国と韓国での選抜は、本学の海外支局員により、現地での面接試験を行う。面接においては、特に、上記のアドミッションポリシー及び教育目標に対する意志と情熱を確認し、適正や能力について判断する。

また、入学後の授業については、全て日本語で行うこととしており、外国人留学生の日本語能力を高めるための科目として、カリキュラムの中に日本語科目12科目（必修科目6科目、選択必修科目6科目）を設けている。

さらに、社会人や帰国生徒など、一般の高校生を対象とするだけでなく、優秀な入学生を確保するために広く学生募集及び入学者選抜を実施したいと考えている。

最後に、大学入試センター試験利用入試を実施する計画にある。この試験でも前期・中期・後期の三期を設け、国語(国)、地理歴史(世A/世B/日A/日B/地歴A/地歴B)、公民(現社/倫/政経/倫・政経)、数学(数I/数I・数A/数II/数II・数B/工/簿/情報)、理科(物I/地学I/理総A/化I/理総B/生I)、外国語(英/独/仏/中/韓)の6教科28科目から高得点科目を利用する方式で実施予定とする。前期では3教科3科目、中期・後期では2教科2科目の高得点科目を採用した選考を予定している。

シ 企業実習や学外実習の具体的計画

本学科では、学生の企業実習のために「インターンシップ」が用意されており、内容としては事前・事後教育と企業での実習から成り立っている。

(1) インターンシップの具体的計画

・インターンシップの概要・目的

インターンシップは、3年次春学期に、「実社会を経験し、有意義な大学生活を送る」をテーマとして、大学在学中に社会の中での実習を行うことによって、実社会への興味を喚起させ、社会人としての基礎知識を身につけるとともに、自分の進路について思索し、その後の大学生活を有意義に送るために、自分で考え、自分で行動できる能力を身につけることを到達目標として実施する。(資料4)

・インターンシップの実施方法

インターンシップは、事前教育(学内:6月~7月)、学外実習(学外:7月~9月)、事後教育(学内:9月)で構成する。事前教育は、学内での講義として行い、ビジネスマナー、社会人に求められるスキル、企業研究、インターンシップの意義や内容指導を実施する。学外実習は、実習受入承諾施設の中から学生の希望との調整を行い、実習施設を決定し、約2週間、日数にして10日以上の実習を行う。事後教育は、学内でインターンシップ報告会を開催し、学生の成果発表と、それに対する質疑応答によって行う。成績評価については、事前教育における評価、学外実習評価(実習評価表による評価)、実習日誌や実習報告、事後教育における評価等を総合的に勘案して評価する。

・インターンシップの実施体制

インターンシップ担当は、専任教員があたり指導を行う。加えて、実習中の学生からの

相談には、演習担当教員も適宜アドバイスを行うなど、専任教員全員で支援する体制とする。インターンシップの実習先としては、放送、印刷・出版、広告、映像関係など文化財学部アニメーション文化学科におけるインターンシップの受入実績企業を引き続き受入先として想定しており、必要に応じて拡充していく。

テ 管理運営

本学の学術的な管理運営の実施体制としては、学部教授会において審議・検討を行い決定する。具体的には教育課程の変更、当該学部学科等に係る諸規程の改廃、当該学部への入学、学位授与及び卒業等の事項など、直接的事項に関する意志決定が行われる。その他、専任教員採用等に係る格付け審査に関しては、当該関係領域の専任教員等による専門分科会により格付けを検討審査し、学長・副学長等で組織する全学審査会上申し、総長・理事長との協議により格付けが決定され、教員の採用及び昇格が行われる。

また、本学の最終決定機関として「大学協議会」を設けており、大学協議会では、本学の教学に関する重要な事項の他、大学全体に係る総括的事項や運営について、適切、円滑かつ迅速に進めるための審議・決定を行う。大学協議会の構成メンバーは、総長を議長に、学長、副学長、研究科長、学部長、事務局長などの主要な構成員により組織するものであり、総長は、その必要性に応じて学内はもとより、学外からも構成員として専門職種の人材を招集し、多角的な観点からの意見をもとに意志決定を行うこととしている。

(1) 外国人留学生の受入れ体制について

吉備国際大学では現在369名の留学生を受入れている。留学生を専門に取り扱う部署として留学生課をスチューデントサポートセンター内に置き、留学生が所属する学科ならびに他部署と密接な連携を取りながら、「出入国管理及び難民認定法」等に基づく日本国在留に関する指導、奨学金申請に関すること、留学生寮に関すること、学外の宿舎に関すること、学内外の留学生交流に関すること、日本での生活指導に関すること、卒業後の進路に関すること等、留学生に対する全般的な支援を行っている。本学科で外国人留学生を受け入れた場合にも、このような留学生受入の経験と実績をもとに、入学から卒業まで、留学生をサポートできる体制が整っている。

ト 自己点検・評価

本学においては、学長の諮問組織として「自己点検・自己評価委員会」を設置している。

委員会では学長を委員長として、「自己点検・自己評価方法及び体制に関する事項」、「教育理念及び教育活動に関する事項」、「その他自己点検・自己評価に関する事項」を協議することとしている。また委員会の評価項目に対応させて、次の9つの部会を調査・実施組織として機能させている。

- (1) 基本事項検討部会 (2) カリキュラム部会 (3) 教育指導部会 (4) 研究活動部会
- (5) 学生活動部会 (6) 図書館部会 (7) 情報処理機器部会 (8) 就職部会
- (9) 大学院部会

これらの部会においては、適宜その必要性に応じて部会を開催し、個別の点検・評価実施項目について検討を行っており、調査や成果の見直しを図った事項など実績をもとに自己点検・自己評価委員会でまとめ、平成7年度以降、毎年1回の自己点検・自己評価委員会総会を実施している。そこで指摘された事項を検討し、将来の展望をもとに、本学のあるべき大学像の検討を重ねている。平成9年3月には、初めての「吉備国際大学白書―自己点検・自己評価報告書―」を作成し学内外に公表した。

その後、平成16年3月に2回目の「自己点検・評価報告書」を作成し、それを大学基準協会加盟判定審査報告とし、平成17年4月に「大学基準に適合している」との認定評価を受け、さらに、平成22年度の大学評価（認定評価）申請の結果についても、評価の結果「大学基準に適合している」との評価認定を受けた。

「学生の授業評価アンケート」に関しては、平成12年度から継続的に実施している。この結果を基に授業改善につなげているが、より実践的な効果をあげるために授業評価アンケートを実施する科目範囲、実施回数、実施方法などを再検討しているところである。また、授業評価以外にも大学の施設、各種サービス、職員等を対象とした学生アンケートを計画し、大学全体の各種環境の質的な向上を図ろうとしている。その一環として、平成23年度には、留学生と日本人学生との交流等を調査するアンケート調査を実施した。また、チューター制度を学生がどの程度理解し、学生生活の向上に活用されているかをアンケート調査した。さらに、今後は、学生以外の外部評価機関からの定期的な評価も取り入れ、多面的な評価システムを構築する予定である。

これまで、既存学科において、教育目標に基づき、①国家試験合格率の向上、②退学者の減少、③基礎学力の向上、④入学前教育、⑤アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーなどについて自己点検・自己評価などを行ってきた。本学科においても自己点検・評価の実施により、教育研究水準の向上に努めていく。

ナ 情報公開

本学では、web上にホームページを開設しており、建学の理念、各学部・学科紹介など

を掲載しているが、トップページに「教育情報の公表」のバナーを設け、そこからのアクセスすることにより、以下の目次ページから簡単に本学の情報を閲覧することができるように配慮するなど、積極的な情報の公表に努めている。

(吉備国際大学ホームページアドレス <http://kiui.jp/pc/>)

1. 教育研究上の基礎的な情報

(1) 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的

(2) 専任教員数

(3) 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境

(キャンパス概要、運動施設概要その他の学習環境、主な交通手段等)

<キャンパスマップ、施設・附属機関、交通アクセス>

(4) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用

(吉備国際大学ホーム>教育情報の公表> 1. 教育研究上の基礎的な情報)

2. 修学上の情報等

(1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績

(2) 入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数

(3) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

(シラバス又は年間授業計画の概要)

(4) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準

(必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位)

(5) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

(6) 教育上の目的に応じ学生が習得すべき知識及び能力に関する情報

(履修モデルの設定、主要科目の特長、科目ごとの目標等)

(吉備国際大学ホーム>教育情報の公表> 2. 修学上の情報等)

3. 財務情報

<前年度の財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、監事の監査報告書>

(吉備国際大学ホーム>教育情報の公表> 3. 財務情報)

4. 教育研究上の情報

(1) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

<教員一人当たりの学生数、年齢別教員数、職階別教員数>

(2) 教育内容

＜専任教員と非常勤講師の比率、学位授与数、就職先の情報＞

(3) 学生の状況

＜退学者・除籍者数、留学生及び海外派遣学生数＞

(4) 国際交流・社会貢献等の概要

＜協定相手校、社会貢献活動＞

(吉備国際大学ホーム＞教育情報の公表＞4. 教育研究上の情報)

また、教員プロフィール（下記の①～⑦の項目）、web上のシラバスを掲載するなど、授業科目を記載し、本学の教育・研究内容の公開に努めている。

- | | | |
|------------------|-------|-----------|
| ①専門分野とそのバックグラウンド | ②担当科目 | ③現在の研究テーマ |
| ④著書・論文 | ⑤所属学会 | ⑥メッセージ |
| ⑦電子メールアドレス | | |

これらの情報の更新は、web上から各教員自身がIDとパスワードを入力することで、専用の画面から書き換え可能なシステムを導入しており、情報は随時更新されている。

以上のほか、国立情報学研究所の研究者データベースにも研究情報を提供し、教育研究活動の公開に努めている。今後も、産学官連携、地域連携を促進するべく、情報公開項目を再検討し、具体的な教育研究活動に関する情報提供を推進していくこととしている。

さらに、研究紀要は毎年発行し、平成23年度からは学部毎の刊行を取りやめ、人文系と自然・医療系の2分冊として、学部を超えた共同研究推進の糸口にしている。各研究所からはそれぞれの研究報告書を作成し発行している。その他には、毎年作成する大学案内、学校法人の機関誌である「JEI」、関連学園である加計学園との共同機関誌である「KETHY」などを通して学内情報等を公開し提供している。

二 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

吉備国際大学では、学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための組織的な取り組みを目的に、平成15年度から「教育開発・研究推進中核センター」の教育部門の中に「FD委員会」を設け、教育改善を図るため大学全体でとり組んできた。これらの充実を図るため平成21年度から、全学的な教育機能の質的向上に向けたFD活動を企画・立案し推進するための「FD企画推進部会」を設置した。この「FD企画推進部会」は、各学部のFD委員（学部の委員長）により構成され、全学的なFD、各学部・学科におけるFD研修会への組織的取組みがなされることになった。全学的に開催しているFD研修会は、現在定着化しており、学術・教育研究発表会も年々内容的に充実してきている。

大学設置基準の改正によって「教育研究上の目的の明確化」が定められ、その留意事項として「各大学のそれぞれの人材育成上の目的と学生に修得させる能力等の教育目標を明確にし、これに即して、体系的な教育課程を提供するとともに、責任ある実践のための人的、組織的体制を整えることに留意すること」と付記している。これを受けて平成22年度「FD企画推進部会」の取り組みとして、中教審の示した「学士力」を基準とし、本学の学部・学科においてカリキュラムマップの作成を行うこととなり、平成23年度には各学部・学科のカリキュラムマップが作成された。

また、平成21年度から実施している「教職員の学内授業参観」については、見直しを行いつつ実施してきた。一方、学部のFD委員会では、「基礎学力向上のための取り組み」、「留学生の日本語能力向上のための取り組み」が話し合われ、今後も見直しを行いつつその活動を継続していく予定である。また、これまで全学的に取り組んできた「学生満足度調査」の結果については、学部・学科単位での分析を行っている。

さらに、本学で実施している学生による授業評価アンケートは、春学期と秋学期の二回「FD委員会」の下部組織である授業アンケート実施部会において実施されてきたが、平成23年度より、学生満足度向上委員会に3つの部会を開設し、そのうちの一つである「教育向上部会」の下で実施されることになった。その結果については、教員の自己資料としてフィードバックされており、その結果に基づき各教員は授業の改善に役立てている。なお、この結果は本学のホームページにも公開されており、学生の閲覧も可能となっている。

次に、シラバスについては、「教育開発・研究推進中核センター」の教育部門よりシラバス作成のためのガイドラインが示され、記述内容を統一することで授業テーマや到達目標が明確になった。開講する全科目についてシラバス作成を義務付け、学生の履修登録の際に必要な情報を提供している。学生の履修登録については、平成20年度よりweb入力することとなり、その書式を統一した。シラバスの内容については、履修登録する学生の立場に立って、科目名、担当者名、履修年次、開講期、講義概要、授業計画、履修上の注意、成績評価方法などを掲載することとし、随時Web更新も可能としている。また、すべての学科で学科長のもとシラバスの記載内容をチェックして、シラバスの質が向上するようにしている。その内容は、本学ホームページからの閲覧が可能であり、学内外に公開性の高いものとなっている。

本学科においても、他の学科と同様にFDを推進し、授業改善などに積極的に取り組むものである。

ヌ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学では、キャリア教育と就職支援を全学一体となって取り組むため、「キャリア教育・サポート委員会」を組織し、学生自らが職業観・勤労観を培い、自らの個性・能力を把握

しつつ、将来の進路を選択できるように支援してきた。平成21年度から、「就活実践力の養成と総合的な就職支援プログラム」大学改革推進等補助金を受け、「大学教育・学生支援推進事業」として実践してきた。

また、1年次から学年別に段階的にキャリア意識の養成を目指すキャリア教育「キャリア開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を実施し、教育課程のなかで段階的に就活実践力を養成するとともに、学生自らが能動的に知識・資格・技能を習得し、就職活動において自らの適性に合致した職域・職種への就活実践力が発揮できるよう養成し、希望する職種へ就職できるよう支援体制を構築している。加えて、様々なキャリア教育の中でも実際の職場で就業体験するインターンシップは、本格的就労に向けた実践的準備の機会となり、学生の就職意識の啓発と向上を図るためにはとても有効であると考えている。

この他にも、様々な分野で活躍している企業経営者を招き、「職業人としての自身のキャリア」をテーマに特別講義も実施する計画である。働くことへの意義を高め、視野を広げることで自分の将来を考える機会も与えたいと考えている。自らが課題を発見し、解決することができる人材の育成に努める。

さらに、効率的に就職支援を行うために、キャリアサポートセンターを中心に、産業界等とも密接な連携を図り、本学単独開催あるいは関連校合同開催による就職面談会や企業懇談会を行い、様々な業種や職種の情報提供及び社会人基礎力養成のための援助を受けられるような体制を構築し、就職活動やキャリア形成に関する学生の相談にのると共に、指導を行っている。本学科においても、従来と同様に、キャリアサポートセンターと専任教員とが密接に連携・協力し、学生の就職支援を実施する計画である。